

ドウマンション住民が 現状無視の計画見直しの意見

寝屋南土地区画整理事業 深刻な生活影響に批判の声

7月31日(月)、市まち政策部都市計画室が、市民会館で、8月30日に予定の府・市合同の都市計画公聴会に先立って、寝屋南土地区画整理事業に関する市民説明会を行いました。

事業計画地に隣接しているラウンドシティドゥウ香里南の住民から、二十年前に、440世帯に170台の駐車場しかない開発が許可された。管理組合の努力で、周辺に駐車

寝屋川市は充分な市民的検討を行え

市は、公園、農地などで緑を20%確保するとしていますが、現状より1ha以上の緑が失われることが明らかになりました。まちづくりのあり方をめぐって、開発優先から自然の回復・再生をめざす世論も広がっています。寝屋川市の計画は、こうした流れに逆行するものです。参加者からは、環境の悪化や交通の安全問題などが指摘されました。

日本共産党は、多額の税金を投入する公共事業であることから、市民的検討を呼びかけるものです。

に住んでいる住民には、何の相談もなく、まったく周辺住民を無視した計画ではないか、この三年間、現に目の前などの意見が出されま

市は、ドゥウマンション住民との協議は続けると答えました。

非核平和のための 戦争・原爆展開かれる

7月29日(土)・30日(日)、市立総合センターで、今年も「非核・平和のための寝屋川戦争・原爆展」が開催されました。

夏休みということもあり、図書館の利用者や親子連れが、「原爆と人間展」パネルに見入る姿が目立ちました。



（被爆写真展に見入る親子づれ）

た。

日曜午後のプログラムでは、オープニングにアルパ(パラグアイ)とギター演奏。途中、ヘルマンハープの演奏があり、井上圭史実行委員長が

出張先の天津の地から、「いまや戦争に勝者も敗者もありません」と、非核平和の

願いを込めて熱いメッセージを寄せました。

ブリッジごだまの皆さんが、川崎洋編の子ども詩、「世界を支配できたら」など6篇を朗読しました。

初町の西沢さんが、

長崎被爆の体験を、二度とあってはならないの思いをこめて、語り

ました。

最後に、「二老女の歩いて来た道」敗戦から日本に帰るまで」と題して、豊島在住の向江チツ子さんが、日本が植民地支配していた朝鮮から、戦後、逃避行のように山口県の

仙崎にたどり着くまでを、途中、叔母が抱いていた三ヶ月にもならない赤ん坊の泣き声が聞こえなくなった真相にふれながら、涙ながらに語り、参加者に深い感銘を与えました。

議員日誌



中谷
光夫

長い梅雨もようやくあけました。全国各地で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

夏休みらしく、少しはゆつくりできるかと思っていました。が、行事、ニュース配付、アンケート配布、ポスター掲示、集金などが重なり、暑さとの体力勝負の日々になっています。

法律相談

とき：8月18日(金) PM6:30~
ところ：寝屋川市民会館第3・4会議室
☎824-1181(内2399)

弁護士がご相談にのります。遠慮なくお越しください。
お問い合わせは市会議員団まで